

堀川高校の発掘調査

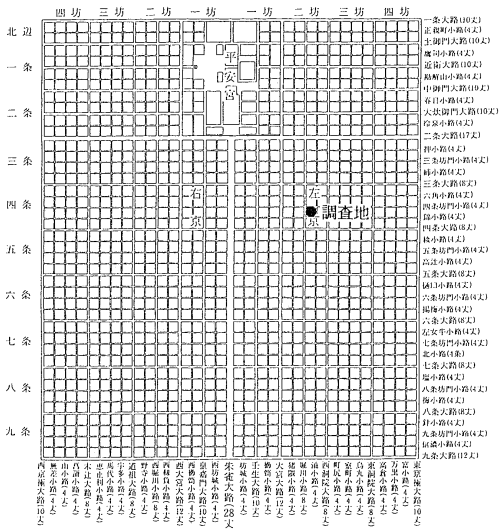
平安時代、調査地は平安京の一部でした。北側を四條坊門小路・南側を錦小路・西側を堀川小路・東側を油小路で囲まれたこの区画は、当時の地名の表記の仕方では左京四條二坊十一町にあたります。一町の中はさらに細かい区画に分割されていた可能性もあります。

中世になると、京都の町は、平安京の枠組を残しながらも政治的な都市として、また、商工業や文化の中心地として発展していきます。調査地もそうした市街地の中に組み込まれていました。応仁の乱（1467～77）により京都の町は、一旦、焼けてしまいましたが、乱後も上京と下京の二つのまとまりを形成して、以前にも増して発展していきます。調査地はこの頃の下京の西端に位置しており、東側には織田信長が攻め殺された本能寺もありました。

桃山時代になると豊臣秀吉が新しい都市計画のもと、京都の市街地を改造します。市街地の改造は江戸時代も続けられました。調査地には今の三重県津市に本拠地があった藤堂家の京都屋敷が営まれました。

今回の発掘調査は、堀川高校構内では1984年度の調査（現在のB館）に次いで2度目の調査となります。1996年11月より開始し、すでに江戸時代後半（約150～250年前）、桃山時代から江戸時代前半（約250～400年前）の調査を終え、現在は室町時代（約400～700年前）の遺跡があらわれてきています。

江戸時代後半の調査では、建物の柱穴・井戸・ゴミ処理の穴・石組みの溝・水琴窟・便所甕・菜園の畝など、桃山時代から江戸時代前半の調査では、建物の柱穴・井戸・ゴミ処理の穴・溝・石垣・柵・石敷遺構などが見つかりました。現在調査中の室町時代のものでは、建物の柱穴・井戸・ゴミ処理の穴・土器溜め・区画の溝・柵などを見ることができます。また、陶磁器の椀・皿・壺を中心にたくさんの遺物が出土しており、それぞれの時代の人々の生活の様子をうかがうことができます。



左京

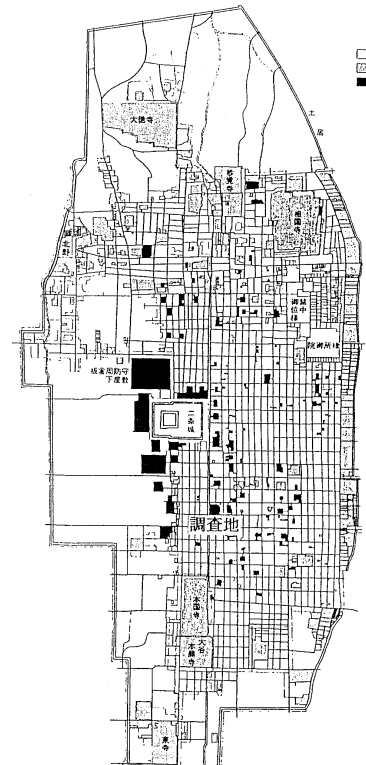
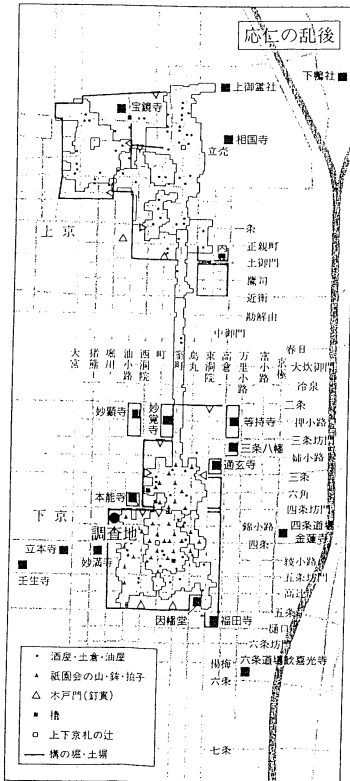
一町	八町	九町	十六町
二町	七町	十町	十五町
三町	六町	十一町	十四町
四町	五町	十二町	十三町

町の敷え方

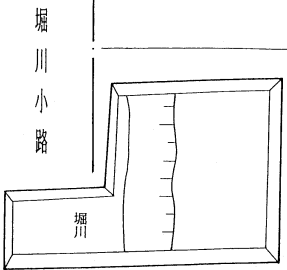
西一行 西二行 西三行 西四行

				北一門
				北二門
				北三門
				北四門
				北五門
				北六門
				北七門
				北八門

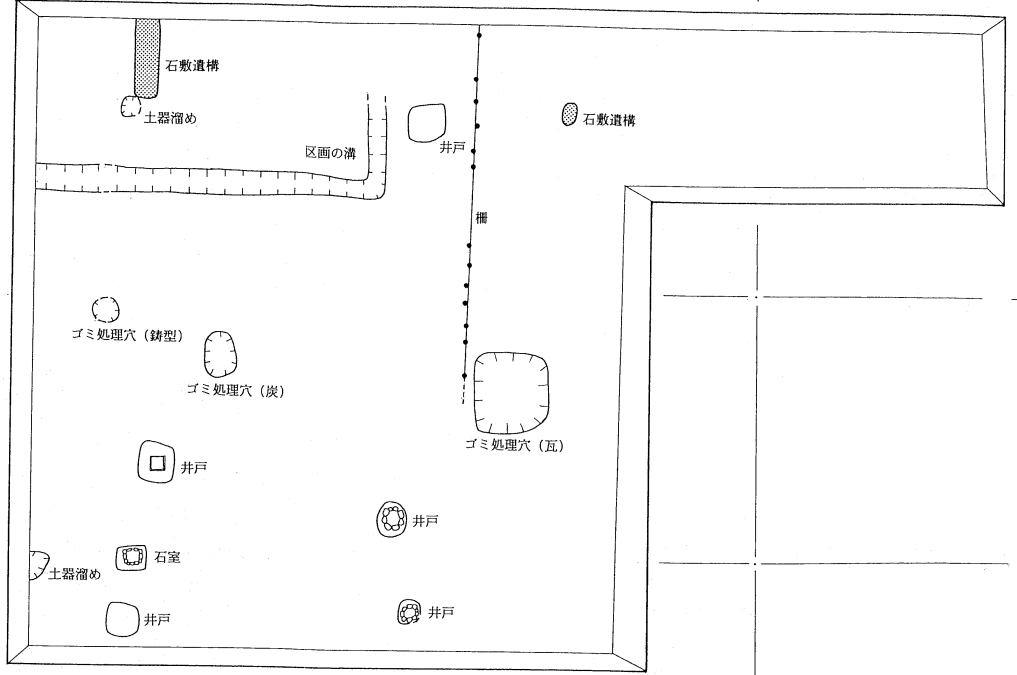
しきょうほちもん
四行八門制



京都市街復原図（応仁の乱後） 高橋康夫『洛中洛外』より 京都市街復原図（江戸時代前期） 『日本都市史入門 I 空間』より



1984年度の調査



室町時代の主要な遺構